

まめなかの

発行責任者

隠岐広域連立立
隠岐病院長
隠岐の島町城北町

初めまして、
ひろしです



隠岐病院院長
たけだひろし
武田 博士

隠岐の皆様、四月一日付で隠岐広域連立立隠岐病院院長を拝命いたしました武田でございます。報道でご案内の方もおられることと思いますが、松江赤十字病院から参りました。松江の生活が八年四ヶ月になりますので、医療に携わる者として隠岐は常に大変身近な存在でありましたが、勤務させて頂くのは初めてでございます。これから公私ともにお世話になると存じますが、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

名称が適正か否かについては議論のあるところでありますが、院内「助産科」で運用初日である四月一日、めでたく最初の出産を祝うことができました。松田和久隠岐広域連立他、関係者にとって素晴らしい朗報でありました。産科医師の激減した今日におきましても安心して出産して頂ける体制作りにもこれからも努力する所存でございます。因みに四月九日現在で四児の誕生を祝っています。確かに出産

への対応は少子化問題解決の鍵となる重要な課題ではありますが、内科や外科といった地域医療を支える診療の根幹も揺らいでいます。こうした一般診療におきましても出産同様新たな体制作りが求められています。全ての疾患や病状について、一般病床数百十床、医師数十七名、看護師数百十七名の当院で担当することは到底できないことはご理解頂いている通りでございます。現在の最高の先端医療を提供するには大学付属病院といえども全てに対応することは困難であります。従いまして、安心・安全の医療を提供するために「私共にはできないこと、私共にできること」をしつかりと見極めた医療連携を更に推進していかなければならないと考えています。

医療は地域の大切な社会基盤でありますが、歴史と伝統に基づいた文化でもあります。就任ご挨拶として、島前病院や島前島後の診療所をはじめ役場にもお邪魔いたしました。住民の皆様と広く深く触れあうことなくして私共の病院の理念、「この島に住む、安心の医療」の役割分担を実現することはできないと考えています。あらゆる機会を捉えて皆様と話し合いを持ち、お気持ちやご意向を病院運営に活かせるよう努力する所存でございますのでご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

武田博士プロフィール

生地……山口県宇部市(高校まで)
趣味……カメラ携帯で撮影し、歩くこと。

無理なこと……飲酒(一滴も駄目)、ゴルフなど。

職歴

- ・京都大学医学部第一外科：昭和四十一年～昭和五十五年まで(一年間ペンシルヴァニア大学出張) 助手
- ・天理よろづ相談所病院：昭和五十五年～平成九年 外科副部長、部長
- ・滋賀県立成人病センター平成九年～平成十年 副院長
- ・松江赤十字病院：平成十年～平成十九年 病院長

新規職員の紹介

平成十九年度がスタートし、早二ヶ月がたちます、遅くなりませんが、四月、五月付け採用職員を紹介いたします。よろしくお願います。



さわとしはる
澤 敏治
(外科医師)

福井県敦賀から来た外科の澤敏治です。受験した時から外科医と決めていました。趣味は手術とおしゃべりです。毎日手術をしながらおしゃべりしたいですね。心配しないで、手術のポイントの瞬間だけ静かになります。外科一人ですが多くの先生方に助けられ、また職員一人一人から暖かい応援が感じられ、毎日が充実した日々です。感謝いたします。明日には本土から手術を求めて来島する患者さんを夢んでいます。



まえだたかひろ
前田 孝弘
(精神神経科医師)

果たして、隠岐での生活にうまく適応できるかわからないが、先々のことを考えるよりも、目の前に来られた方一人一人を大切につきあつていこうと思つていきます。



みはらたくみ
三原 卓巳
(精神神経科医師)

平成十九年四月一日付けで隠岐病院に赴任した精神神経科の三原です。今回は四年ぶり二回目の赴任となります。前回の時は、要領もわからず右往左往しながら何とかがんばっておりましたが、二回目となる今回は割と早くなじむことができていると思います。今後と

もよろしくお願います。



かとういちろう
加藤 一郎
(婦人科医師)

この四月から隠岐病院産婦人科に赴任しました加藤一郎です。産婦人科医一名体制に伴い、分娩を制御された妊婦の皆様にはご迷惑をお掛け致しますが、ベテランの助産師らと共に出来る範囲で周産期管理を行つてまいりますので宜しくお願致します。又、子宮がん検診など婦人科疾患に関しても、ご心配なことがありましたらお気軽にご相談下さい。



たさかまさる
田坂 勝
(小児科医師)

この度四月より採用となりました小児科の田坂です。医師十一年目になります。六年前にも四ヶ月隠岐病院で働いていました。事故の無い様に、安全で安心していただける医療を笑顔で皆様にお届け

したいと考えています。短いですがフットワーク軽く仕事していきます。よろしくお願います。



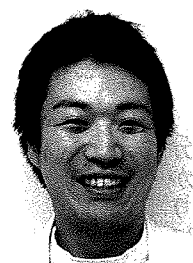
たかはしよしふみ
高橋 佳史
(内科医師)

この度、赴任しました内科の高橋です。島内の医療の充実に協力したいと頑張るつもりです。よろしくお願います。



なりたやすこ
成田 泰子
(内科医師)

二年間の初期臨床研修を終え、今年度から隠岐病院で働くことになりました。最初の一週間で自分の力不足を痛感し、どうなることかと思いましたが、周囲の皆様を支えられてどうか日々過ごしていきます。今後も地道に頑張ります。よろしくお願います。(宿直あけで、ここまでしか顔が出せません。ごめんなさい)



かどわきまさる
門脇 俊
(整形外科医師)

この四月より隠岐病院整形外科に赴任した門脇と申します。ご存知の方も多いかも知れませんが、私は隠岐の生まれで高校卒業までの十八年間で過ごしました。医学部卒業後いくつかの病院を経て今回十年ぶりの帰島となります。未熟者ではございますがこの故郷の医療に少しでも貢献できるような張り合いと思っておりますのでよろしくお願い致します。



あかだひろゆき
赤田 宏行
(臨床検査技師)

四月より、検査室で勤務することになりました赤田宏行です。私は、短大卒業後、十二年間、玉造厚生年金病院で勤めていましたが、地元で働きたいと思い、帰ってきました。分からない事もたくさんありますのでよろしくお願致します。



まつばやしかおる
松林 かおる
(看護師)

この度、二階病棟に配属になりました松林といいます。二階病棟はたくさんの方の科の混合病棟です。スタッフの一員として、患者さまに適切で安全な看護を提供できるよう頑張っていきます。よろしくお願い致します。



な かの けい
奈 佳 野
(看護師)

みなさん初めまして。四月から看護師として働くことになりました野佳奈と申します。私は三年間看護専門学校に通い、その後大学に進学し二年間勉強してきました。隠岐を離れて五年間、家族や地域の方々、たくさんの方々に支えられてきました。まだまだ力不足ですが、これから私が、少しでもみなさんのお役に立てたらと思います。応援よろしくお願致します。

**院内助産科
「あかい」
スタートしました**

助産師が
分娩を
扱います

産婦人科医の不足、分娩取扱の集約化などの影響を一番に受け、平成一八年四月から産婦人科医師不在、当院での分娩取扱いが中止されました。十カ月に入った妊婦さん達は、島外で生活しながら出産することを余儀なくされ、平成十八年十月の分娩再開までの六月六二名の方が、本土で出産されました。妊婦健診は、週一回のパート診療で行われていましたが、医師不在の間、産婦人科に通院されている女性が、どれほど、不安

な日々を過ごしたかと思うと心が痛みます。医師が来る、いや来ないと一日一日状況がかわり、結局平成一九年四月以降は医師一名での診療、分娩取扱いは制限するという方向性が打ち出されました。私達助産師は、この状況に、たとえ、世の中が変わってきたとは言え、あーそうかと納得出来ませんでした。何とか隠岐で出産していただきたいと思い、自分達に出来る事を模索してきました。

次ページへ

妊娠中、分娩時経過正常であれば、私達は一人の医師と協力し、分娩を取り扱える、何とか力を発揮し一人でも多く、家族の見守る中で出産してほしいと強く願い、助産師が主体となって分娩を取り扱う院内助産、助産科「あかり」を立ち上げました。

助産科設置は山陰で初めて!

と言っても、見た目にどこか病院の中が変わったわけではないので、分かりにくいかもしれ

助産科「あかり」のスタッフでちゅ



ませんが、午前中は、通常の産婦人科の診察が行われています。午後は予約制で助産師が妊婦検査や、母乳のケア、産後の状況を診察しています。予約制ですので、一人一人にゆつくりと対応でき、妊婦さんの健康管理面

での話しや、医師には相談しにくい悩みやトラブルについて一緒に考えていくように勤めています。又、便利な世の中になった分だけ、お母さんにしか子供にしてあげられない母乳育児に

は特にスタッフ一同、力を入れてケアをしています。

助産師は、現在、管理職も含め八名おりますが、助産科のスタッフとして平日は、病棟に一名、外来に二名配置されています。経験年数十年以上のスタッフで対応しています。年齢は申し上げにくいのですが、四十代ともうすぐ四十代つてところです。そして、ぐんと若手が、隠岐病院八人目の助産師として頑張っています。

「あかり」という呼称は、なんだか違うイメージをもたれる方もおられると思いますが、お産の灯を消したくない、隠岐の島での産ぶ声を絶やしたくないとの思いでつけたものです。

今は自分に関係ないかもしれないかもしれませんが、わが子や孫が、この隠岐で産まれ育つというこの意味の深さをみんな考えていきましょう。

私達も安全、安心を心がけながら頑張っていきます。もうちょっとで四〇代のT



まめなかの講座開催のお知らせ

「白内障について」

眼科医師 三宅賢一郎先生です

日時：6月30日 土曜日 14:00～

場所：都万中里保健センター

多数の方の参加をお待ちしています

あとうき

先日、職員の一年をふりかえるある会議がありました。この一年に二人の働く仲間が病気や事故で亡くなっていますので、議長役の看護師が、「元気で今、ここにいる事が大切なことだと思えます」と命の尊さを声をつもらせながら訴えていました。

隠岐病院も四月より新しい院長を迎え、新体制での診療が始まっています。助産科の開設など新しい試みも始まりました。問題、課題は山積みですが、職員一同、「元氣」でがんばります。